

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-279727

(P2004-279727A)

(43) 公開日 平成16年10月7日(2004.10.7)

(51) Int.Cl.⁷

G09B 5/06

G06F 17/60

G09B 5/12

G09B 19/00

H04N 7/14

F I

G09B 5/06

G06F 17/60 1 2 8

G09B 5/12

G09B 19/00 G

H04N 7/14

テーマコード (参考)

2C028

5C064

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2003-70844 (P2003-70844)

(22) 出願日 平成15年3月14日 (2003.3.14)

(71) 出願人 503098908

株式会社B B ラーニング

新潟県新潟市東大通1-1-15 安田生命ビル4F

(74) 代理人 100080089

弁理士 牛木 護

(72) 発明者 武田 健太郎

新潟県新潟市東大通1-1-15 安田生命ビル4F 株式会社B B ラーニング内

Fターム(参考) 2C028 AA00 BA01 BA02 BA03 BB04

BB06 BC05 BD02 CA13

5C064 AA01 AC04 AC12 AD06 AD16

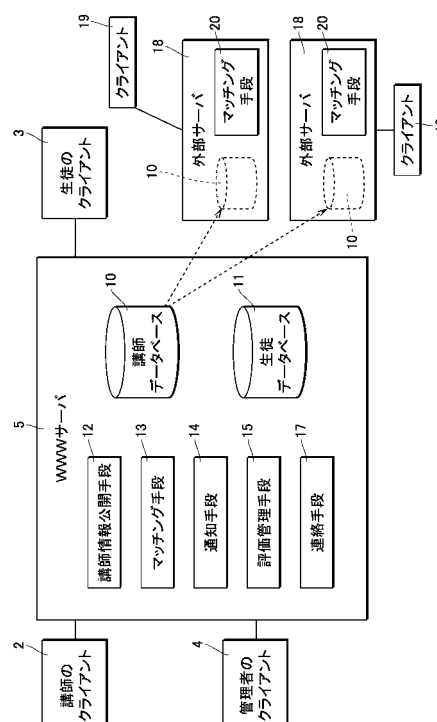
(54) 【発明の名称】 個別学習指導システム

(57) 【要約】

【課題】生徒が講師を指名する際に、実際に講師の授業を受けた他の生徒の評価を反映させることができるようにする。

【解決手段】講師情報公開手段12により、講師データベース10に登録されている各講師の講師情報と、実際に授業を受けた生徒や父兄からの評価情報が、生徒のクライアント3に公開される。また、生徒のクライアント3から希望する講師を指名すると、WWWサーバ5に備えたマッチング手段13がその指名を承諾するか否かを講師に自動的に問い合わせる。その後、指名承諾の可否について、WWWサーバ5に備えた通知手段14によりその結果が直ちに生徒に通知される。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

講師のクライアント及び生徒のクライアントが通信手段を通してアクセス可能なサーバを備え、
前記サーバは、講師情報を登録する講師データベースと、
前記講師データベースの登録内容を前記生徒のクライアントに公開する講師情報公開手段と、
希望する講師の指名を前記生徒のクライアントから受け取ると、前記通信手段を通じてこの指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせるマッチング手段と、
前記マッチング手段による前記指名承諾の可否を前記通信手段を通じて指名した生徒に通知する通知手段と、
前記生徒のクライアントから入力される講師に対する評価情報を前記講師データベースに登録する評価管理手段とを備えることを特徴とする個別学習指導システム。

【請求項 2】

前記マッチング手段は、前記生徒のクライアントから希望する講師の指名と共に受け取った入札条件が、その指名を受けた講師の希望に適合する場合にのみ、前記通信手段を通じて指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる入札管理手段を備えることを特徴とする請求項 1 に記載の個別学習指導システム。

【請求項 3】

前記サーバは、前記講師のクライアントから指名を承諾する返答を受けると、この講師のクライアントと指名した前記生徒のクライアントとの間で、前記通信手段を通じた音声および映像のやり取りを許可する連絡手段を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の個別学習指導システム。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、インターネットなどの通信手段を利用して生徒に対し個別の学習指導を行なう個別学習指導システムに関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来、インターネットを活用した家庭教師派遣システムとしては、インターネット上のデータベースに講師として派遣されることを希望する個人の希望時間給や指導可能な教科名等を登録し、講師の派遣を望む者がこのデータベースにアクセスして、希望する講師の検索を可能とするものが知られている（例えば特許文献 1）。また別な例として、インターネット上にある家庭教師派遣本部のサーバのデータベースに、教師の得意学科、希望給料又は労働時間等を登録するためのデータベースを作成し、学習生が教師の希望内容をインターネットのホームページから申込むと、家庭教師派遣本部はその希望内容に基づきデータベースから教師を選択して、契約後に教師を派遣し、さらに教師に対する学習生からの学習指導評価が高い場合は、手当てで還元するシステムが知られている（例えば特許文献 2）。

【0003】**【特許文献 1】**

特開 2002 - 183292 号公報（段落 0005 段）

【特許文献 2】

特開 2002 - 183294 号公報（段落 0005 段）

【0004】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記のような従来のインターネットによる個別学習指導の講師検索システムでは、講師の学歴及び経歴等をデータベースとして一方的に保存蓄積するだけで、実際に生徒が授業を受けた後の講師に対する評価情報は、他の生徒や父兄に開示されていなか

10

20

30

40

50

った。従って、学習内容を生徒に教えることが不得手の講師であっても、学歴及び経歴等が優れているとしてデータベースに登録されている場合には、生徒はその講師の一方的な情報のみから、優秀な能力があると判断する傾向に陥る問題があった。

【0005】

また、講師の派遣を希望する生徒の性格は様々であるため、教え方の厳しい講師は、ある生徒にとっては相性が合わなく学習の効率が下がる優秀でない講師と評価されるのに対して、他の生徒にとっては厳しいが故に学習の効率が上がる優秀な講師と評価される場合もあり、講師の優秀さの基準は画一的に捉えることができないが、これに関する講師に対する評価情報は生徒に開示されていなかった。

【0006】

また、地域毎に講師の質及び量の格差があり、生徒の居住地域によっては限られた講師の中から選択せざるを得なく、必ずしも十分満足のいく講師選択が行われていなかった。例えば、地方都市に住む生徒が遠隔地にある例えば首都圏の大学を受験希望する場合に、こうした希望大学の受験経験のある講師を近隣地域で探すことは困難であった。

【0007】

そして、ひとたび講師が提示した希望金額と合致する報酬金額を支払ってもよいと考える生徒が存在するとなると、該生徒と契約が進行されてしまうので、それ以上の金額を支払っても当該講師との契約を希望する生徒が存在しても、それまで契約していた生徒を変更し、講師がより高い報酬を受けることは困難であった。

【0008】

さらに、実際に講師の授業を受けた生徒の講師に対する評価が高い場合であっても、手当てとして報酬が支払われるのみであり、以後の生徒との契約の際に、自分はい実際にこれまで自分の授業を受けた生徒からの評価が高い講師であることをアピールすることができず、同時にそうした評価が生徒にも開示されていないため、講師が生徒からの評価に応じた適正な報酬を受けることは困難であった。

【0009】

この他に、講師と生徒との間で授業を行う際、文字による通信のみでは、講師と生徒が相互の表情等を確認しながら学習を進めていくことは困難であった。

【0010】

そこで、本発明は、生徒が講師を指名する際に、実際に講師の授業を受けた他の生徒の評価を反映させることができ、しかも生徒がどの地域にいても、その評価に基づき適正に希望する講師を指名できる個別学習指導システムを提供することを目的とする。

【0011】

また本発明の第2の目的は、講師が評価に応じた適正な条件で指名を受けることができる個別学習指導システムを提供することにある。

【0012】

また本発明の第3の目的は、講師のクライアントと生徒のクライアントとの間で、音声及び映像により対面教育と同等な学習環境を提供することが可能な個別学習指導システムを提供することにある。

【0013】

【課題を解決するための手段】

本発明に係る個別学習指導システムは、講師のクライアント及び生徒のクライアントが通信手段を通してアクセス可能なサーバを備え、前記サーバは、講師情報を登録する講師データベースと、前記講師データベースの登録内容を前記生徒のクライアントに公開する講師情報公開手段と、希望する講師の指名を前記生徒のクライアントから受け取ると、前記通信手段を通じてこの指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせるマッチング手段と、前記マッチング手段による前記指名承諾の可否を前記通信手段を通じて指名した生徒に通知する通知手段と、前記生徒のクライアントから入力される講師に対する評価情報を前記講師データベースに登録する評価管理手段とを備えたことを特徴とする。

【0014】

10

20

30

40

50

この場合、サーバに備えた講師情報公開手段により、講師データベースに登録されている各講師の講師情報のみならず、各講師について実際に授業を受けた生徒や父兄からの評価情報が、通信手段を通じて生徒のクライアントに公開される。したがって、実際に講師の授業を受けた他の生徒の評価に基づき、生徒や父兄が講師を指名することができる。また、生徒のクライアントから希望する講師を指名すると、サーバに備えたマッチング手段がその指名を承諾するか否かを講師に自動的に問い合わせると共に、講師から指名承諾の可否についての返答を受けると、サーバに備えた通知手段によりその結果が直ちに生徒に通知される。したがって、生徒がどの地域にいても、公開された講師の評価に基づいて、適正に希望する講師を指名できると共に、希望する講師が指名を承諾したか否かを生徒が直ちに知ることができる。

10

【0015】

また、本発明に係る個別学習指導システムは、上記構成において、前記生徒のクライアントから希望する講師の指名と共に受け取った入札条件が、その指名を受けた講師の希望に適合する場合にのみ、前記通信手段を通じて指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる入札管理手段を、前記マッチング手段に備えるのが好ましい。

【0016】

この場合、生徒のクライアントから希望する講師の指名と共に入札条件がサーバに提示されると、この入札条件が講師の希望に適合するか否かを、マッチング手段に備えた入札管理手段が判断し、講師の希望に適合する場合にのみ、指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる。こうすれば、講師は自身の希望に適合する指名についてだけ、承諾の可否

20

【0017】

さらに本発明に係る個別学習指導システムは、上記構成において、前記講師のクライアントから指名を承諾する返答を受けると、この講師のクライアントと指名した前記生徒のクライアントとの間で、前記通信手段を通じた音声および映像のやり取りを許可する連絡手段を前記サーバに備えるのが好ましい。

【0018】

この場合、講師のクライアントから指名を承諾する旨の返答を受けると、サーバに備えた連絡手段は、講師のクライアントと指名した生徒のクライアントとの間で、通信手段を通じた音声および映像のやり取りが可能になる。これにより、講師のクライアントと生徒のクライアントとの間で、音声及び映像により対面教育と同等な学習環境を提供できる。

30

【0019】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明を添付図面に示す好ましい実施例に基いて説明する。図1は、本発明の一実施形態を全体的に示すブロック図である。このシステムは、講師が利用する講師のクライアント2と、生徒が利用する生徒のクライアント3と、本システムを運営する事務局に設置される事務局のクライアント4と、サーバであるWWWサーバ5のハードウェアとから構成される。これらの各クライアント2～4は、通信手段であるインターネット1で物理的に接続される。ここでの通信手段は、インターネット1の他にイントラネット等の任意のネットワークやそれ以外のものであってもよく、要は各クライアント2～4の間で送受信ができればよい。

40

【0020】

講師のクライアント2は、講師がインターネット上で個別学習指導システムに講師情報を登録し、また生徒との間で授業を行なう際に利用する端末である。講師のクライアント2は、パーソナルコンピュータその他のインターネットに接続可能なすべての端末を含む。講師のクライアント2の設置場所は限定されず、例えば講師の自宅又は職場等の任意の場所に設置してよい。一方、生徒のクライアント3は、生徒がインターネット上で個別学習指導システムに生徒情報を登録し、また授業を行う際に利用する端末である。生徒のクライアント3は、パーソナルコンピュータその他のインターネットに接続可能なすべての端末を含む。生徒のクライアント3の設置場所は限定されず、例えば生徒の自宅、ネットカ

50

フェ、パソコンスクール又は地元学習塾等の任意の場所に設置してよい。さらに事務局のクライアント4も、パーソナルコンピュータその他のインターネットに接続可能なすべての端末を含む。この事務局のクライアント4は、WWWサーバ5に対し様々なコンテンツの情報提供を行なう機能を有する。

【0021】

図2は本発明の一実施形態を全体的に示すシステム図である。WWWサーバ5は、講師データベース10、生徒データベース11、マッチング手段13、通知手段14、評価管理手段15、入札管理手段16及び連絡手段17を備える。

【0022】

各構成についてより詳しく説明すると、講師データベース10は、個別学習指導システムに参加する講師の情報(講師情報)や各講師に対する評価情報などを登録記憶するものである。生徒データベース11は、個別学習指導システムに参加する生徒の情報(生徒情報)などを登録記憶するものである。これらの各データベース10、11は、いずれもWWWサーバ5内の情報記憶手段として設けられている。

【0023】

講師情報公開手段12は、講師データベース10に登録された講師情報や評価情報を、インターネット1上のホームページなどで生徒のクライアント3に公開可能にするもので、これにより講師の派遣を希望する生徒や父兄は、希望する講師を指名する前に、本システムに登録された各講師の一般的な経歴だけでなく、実際に授業を受けた生徒や父兄からの評価を入手できる。

【0024】

マッチング手段13は、講師と生徒を自動的に紹介する処理を行う機能を備えるもので、これは具体的には、生徒のクライアント3に表示される講師情報や評価情報を基にして、この生徒のクライアント3から希望する講師の指名をインターネット1を通じて受け取ると、この指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせるためのメールをインターネット1経由で送信するものである。特に本実施例におけるマッチング手段13は、メールで問い合わせた講師から指名を承諾する旨の返答をインターネット1を通じて受け取ると、その講師に対して指名した生徒に関する生徒情報を、生徒データベース11から入手できるようにする生徒データベース閲覧許可手段を備えている。

【0025】

通知手段14は、マッチング手段13によってメールで問い合わせた講師から指名承諾の可否についての返答を講師のクライアント2から受け取ると、その結果をインターネット1を通じて指名した生徒のクライアント3に通知するものである。これにより、生徒は希望する講師が指名を承諾したか否かを知ることができる。

【0026】

評価管理手段15は、指名を受諾した講師と生徒との間で、実際に講師の授業を受けた生徒の講師に対する評価を、後述する評価情報として講師データベース10に登録記憶させるものである。この評価情報は、インターネット1のホームページ上で、生徒のクライアント2からアンケート形式で入力され、これに基づき講師データベース10に格納される各講師の評価情報が更新または蓄積されてゆく。

【0027】

連絡手段17は、後述するテレビ電話システムを備えたもので、これは前記講師のクライアント3から指名を承諾する旨の返答を受け取ると、その時点からこの講師のクライアント2と指名した生徒のクライアント3との間で、インターネット1を通じた音声および映像データのやり取りを許可するもので、本実施例では授業を行なった際の学習記録が、前記生徒データベース11に蓄積記憶されるようになっている。すなわち、こうした音声および映像データが、全て連絡手段17を経由してやり取りされるので、WWWサーバ5はどの生徒とどの講師が、どの時間に授業を行なっているのかを一元的に把握することができる。

【0028】

その他、本システムでは、前述の講師データベース 11 を生徒のクライアント 3 や講師のクライアント 2 のみならず、インターネット 1 上の例えばオークション系の別サイトを展開する外部サーバ 18 にリンク公開することで、インターネット 1 に接続可能なあらゆるクライアント 19 で、講師情報および評価情報を自由に閲覧できるようになっている。この場合、それぞれの外部サーバ 18 には、独自にインターフェースをカスタマイズしたマッチング手段 20 が設けられる。マッチング手段 20 は、インターネット 1 上で外部サーバ 18 に接続するクライアント 19 に対し、希望する講師の指名だけでなく、その講師に対する入札条件（例えば希望する指導料金など）の入力を促し、一乃至複数のクライアント 19 から希望する講師の指名と共に受け取った入札条件が、その指名を受けた講師の希望（講師データベース 10 に例えば講師の希望指導料金として記憶される）を満たす場合にのみ、インターネット 1 を通じて指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる入札管理手段を備えている。なお、こうした入札管理手段は外部サーバ 18 のみならず、本システムの管理者が運営する WWW サーバ 5 のマッチング手段 13 に備えてもよい。また入札管理手段は、入札条件の受付を一定時間内に制限してもよく、さらにその一定時間内で最良の入札条件を提示した生徒について、インターネット 1 を通じて指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる構成としてもよい。

10

【0029】

図 3 に示すように、図 1 で示す講師のクライアント 2 には、インターネット 1 を通じて特定の生徒のクライアント 3 との間で音声および映像を送受信するための音声映像通信手段 21 が設けられる。同様にまた、生徒のクライアント 3 にも、インターネット 1 を通じて特定の講師のクライアント 2 との間で音声および映像を送受信するための音声映像通信手段 22 が設けられる。音声映像通信装置 21, 22 には、映像入力手段としてのカメラ 23 と、音声出力手段としてのスピーカー 24 と、音声入力手段としてのマイク 25 と、筆跡入力検出手段としてのボード 26 と、筆跡入力手段としてのペン 27 がそれぞれ接続され、これらの各入出力機器により、インターネット 1 上のテレビ電話システムを利用して、講師のクライアント 2 と生徒のクライアント 3 との間で、授業を行なう上での音声および映像のやり取りを可能にする。

20

【0030】

前記講師のクライアント 2 の音声映像通信手段 21、または生徒のクライアント 3 の音声映像通信手段 22 は、ソフトウェア上の機能として、カメラ 23 から取り込まれる講師又は生徒の姿態を撮影した静止画データ又は動画データを、リアルタイムで WWW サーバ 5 に転送すると共に、WWW サーバ 5 からこうした静止画データ又は動画データが送られてくると、講師のクライアント 2 または生徒のクライアント 3 に備えた表示出力手段たる表示モニタ 29 に、その静止画データ又は動画データを表示させる画像表示制御手段 31 と、マイク 25 から取り込まれる講師又は生徒の音声データを、リアルタイムで WWW サーバ 5 に転送すると共に、WWW サーバ 5 からこうした音声データが送られてくると、講師のクライアント 2 または生徒のクライアント 3 に備えたスピーカー 24 からリアルタイムで出力させる音声入出力制御手段 32 を備えている。またここでの画像表示制御手段 31 は、講師又は生徒がペン 27 を用いて、文字又は図形をタブレット等の白板であるボード 26 に記入すると、この筆跡を静止画データとして認識して、図 1 で示す講師のクライアント 2 又は生徒のクライアント 3 に転送する機能を備えており、この静止画データを受け取った講師のクライアント 2 又は生徒のクライアント 3 の表示モニタ 29 により、同一の文字または図形を表示できるようになっている。また図示しないが、印刷装置によりこうした文字や図形をプリントアウトしたり、ノートのようにファイル形式で講師のクライアント 2 又は生徒のクライアント 3 に保存する機能を備えていてもよい。

30

40

【0031】

本実施例では、インターネット TV 電話システムを利用して、指名された講師のクライアント 2 と指名した生徒のクライアント 3 との間の音声および映像による送受信を行なっているが、講師と生徒が撮影された姿態の表示を望まない場合は、カメラ 23 の機能を停止させてもよい。また、講師はボード 26 を用いずに音声のみで授業を行ってもよい。さら

50

に、生徒が一方向の受信を望む場合は、生徒のクライアント3に音声映像通信手段21およびそれに付随する上記の各入出力機器を備えず、送信される授業内容のみを生徒のクライアント3に出力してもよい。

【0032】

図4は、図2で示す講師データベース10の登録内容を示すものである。講師情報41は、各講師の例えば氏名、性別、年齢、学歴、得意科目、性格、住所、出身地、インターネット1上の連絡先である電子メールアドレス、希望指導料金、ランクに関するデータであり、これらの各データは講師自身により各々の講師のクライアント2から入力される。なお、上記各データの入力フォームは、講師のクライアント2からの入力を容易にするために、WWWサーバ5によりインターネット1のホームページ上で提供される。また、講師情報41と共に講師データベース10に記憶登録される評価情報42は、主に生徒のクライアント3から入力されるものであり、これは授業を受けた生徒または父兄のアンケート評価結果データが、その講師の評価として記憶格納される。したがって、評価情報42は生徒または父兄からの評価に基づき刻々と変化する。

10

【0033】

その他、講師データベース10は、前述の講師情報41のランクを確定する理由となる講師の実績情報データとしての講師実績情報43と、本システムを運営する事務局のみが各講師についての諸データを編集閲覧できる事務局対応履歴情報44が、各講師毎に格納される。

【0034】

図5は、図2で示す生徒データベース11の登録内容を示すものである。生徒情報51は、例えば生徒の氏名、生年月日、性別、学校、志望校、インターネット1上の連絡先である電子メールアドレス、あるいは生徒の保護者氏名などに関する生徒及び保護者自身のデータであり、これは本システムを最初に利用するとき生徒のクライアント3から入力される。例えば志望校については、生徒が希望する学校名及び学部名を格納すればよい。また、52は講師マッチング情報で、これは今まで授業を受けた講師の指名である担当講師、どのような契約条件で授業を行なっているのかを示す契約コース、現在の状況（システムのステータス）等に関するデータである。

20

【0035】

その他、生徒データベース11には、学習計画情報53と、指導日誌情報54と、成績記録情報55と、事務局対応履歴情報56がそれぞれ記憶格納される。学習計画情報53は、各生徒の学習計画に関するデータであり、また指導日誌情報54は、例えば講師との間の授業内容など、各生徒の指導日誌に関するデータである。成績記録情報55は、各生徒の成績に関するデータであり、この成績記録情報55を適宜読み出すことで、授業を受けた講師の客観的な評価を行なうことができる。事務局対応履歴情報56は、本システムを運営する事務局のみが編集閲覧できる各生徒についての諸データである。

30

【0036】

次に、本システムの具体的な動作手順について、図6～図8に示すフローチャートを参照しながら説明する。まず、講師の登録手順を図6に基づき説明すると、システムの利用を希望する講師が、講師のクライアント2からインターネット1を通じてWWWサーバ5へアクセスし、このWWWサーバ5に格納される複数のウェブコンテンツから、講師向けのウェブコンテンツを選択する。この講師向けのウェブコンテンツは、講師のクライアント2のブラウザ機能によって表示モニタ29に表示される。ここで講師登録申請フォームから必要事項を入力して送信すると、WWWサーバ5で講師の受け付けが行われる（ステップS1）。このときWWWサーバ5は、講師のクライアント2からの入力情報を、講師情報41として講師データベース10に仮登録として記憶格納する。なお、この時点では講師情報公開手段12による講師情報41の情報公開は行なわれない。その後、申請した講師から本人を確認する書類が事務局に届けられると、事務局で申請内容の確認が行なわれ、ステップS2により採用の可否と、その講師のランク付けが判断される。

40

【0037】

50

前記ステップS 2で採用の場合は、事務局のクライアント4からその旨を入力すると、WWWサーバ5がその講師を特定する識別子（講師IDおよびパスワード）を自動発行して、この識別子を採用の通知と共に講師の電子メールアドレスに通知する（ステップS 3）。このとき、前述の講師情報4 1は講師データベース10に本登録として記憶格納され、以後は、講師情報公開手段1 2による講師情報4 1の情報公開が行なわれる。採用の通知を受けた講師は、生徒からの指名を受けるまで待機することになる（ステップS 4）。

【0038】

一方、ステップS 2で採用の場合は、その旨を電子メールアドレスに通知する（ステップS 5）。仮登録された講師情報4 1は講師データベース10にそのまま保存される。

【0039】

次に、会員である生徒（またはその父兄）の登録手順を図7に基づき説明すると、システムの利用を希望する会員が、講師のクライアント2からインターネット1を通じてWWWサーバ5へアクセスし、このWWWサーバ5に格納される複数のウェブコンテンツから、生徒父兄向けのウェブコンテンツを選択する。この生徒父兄向けのウェブコンテンツは、生徒のクライアント3のブラウザ機能によって表示モニタ2 9に表示される。ここで会員申請フォームから必要事項を入力して送信すると、WWWサーバ5で会員の受け付けが行われる（ステップS 1 1）。このときWWWサーバ5は、生徒のクライアント2からの入力情報を、生徒情報5 1として生徒データベース1 1に仮登録として記憶格納する。それと共に、本人確認のために、入力情報に含まれる電子メールアドレスに、仮登録を行なった旨の通知を送信する（ステップS 1 2）。

【0040】

その後のステップS 1 3において、通知を受けた会員から、通知を受け取った旨の返信が、生徒のクライアント3を利用してインターネット1経由でWWWサーバ5に伝えられると、前述の生徒情報5 1が生徒データベース1 1に本登録として記憶格納される。それと共に、WWWサーバ5はその会員を特定する識別子（会員IDおよびパスワード）を自動発行して、この識別子を会員登録完了の通知と共にその会員の電子メールアドレスに通知する（ステップS 1 4）。この後は、WWWサーバ5に格納される会員専用のウェブコンテンツメニューから、後述する講師指名の手続きを行なうことができる。なおこの段階では、会員のプライバシー保護の観点から、採用登録された全講師を含めて、生徒データベース1 1における生徒情報5 1の閲覧はできないようになっている。

【0041】

図8は、講師指名の手順を示すフローチャートである。同図において、生徒3のクライアントを利用してWWWサーバ5にアクセスし、固有の会員IDでログインすると、WWWサーバ5に格納される講師紹介のウェブコンテンツが表示モニタ2 9に表示される（ステップS 3 1）。ここには、前記図3に示す採用の通知を受けた講師情報が、講師情報公開手段1 2により講師データベース10から読み出されて生徒のクライアント3の表示モニタ2 9に表示される。それと共に講師情報公開手段1 2は、授業を受けた生徒または父兄のアンケート評価結果である評価情報を、各講師の講師情報と共に生徒のクライアント3の表示モニタ2 9に表示公開する。会員は登録されている各講師の経歴だけでなく、実際に授業を受けた他の会員からの評価についても、幅広く情報を得ることができる。

【0042】

ここで、ウェブコンテンツ上にある特定のボタンをクリックするなどして、講師を指名する旨を生徒のクライアント3からWWWサーバ5に送信すると、マッチング手段1 3は講師への指名条件入力フォームを表示モニタ2 9に表示して、会員からの指名条件の入力を待つ（ステップS 3 2）。そして、どのような指名条件とするのかを生徒のクライアント3が入力すると、その指名条件に合致する一人以上の講師が検出されたか否かがWWWサーバ5により判断される（ステップS 5）。ここでマッチングする講師がまったく検出されない場合はステップS 3 2に戻り再度指名条件の入力を行なう。これに対して、指名条件に合致する一人以上の講師が検出された場合は、次のステップS 3 3の講師指名の手順に移行する。これを受けて生徒のクライアント3から特定の講師を指定すると、マッチン

10

20

30

40

50

グ手段 1 3 はその講師のメールアドレスに仮契約条件を記載したメールを送信する（ステップ S 3 3 , S 3 4 ）。

【 0 0 4 3 】

メールを受け取った講師は、会員からの指名を承諾するか否かを WWW サーバ 5 に通知する。それと共にマッチング手段 1 3 は、その指名した会員に限って生徒情報の閲覧を許可する。これは登録した講師が、直接関係のない会員に関する生徒情報を閲覧できないようにするため、これにより生徒情報の秘密保護が確保される。承諾可否の入力は、インターネット上のウェブコンテンツにある特定の参照ページにて簡単に行なうことができる（ステップ S 3 5 ）。

【 0 0 4 4 】

WWW サーバ 5 の通知手段 1 4 は、指名を承諾する旨の通知を講師のクライアント 2 から受け取ると、ステップ S 3 6 に移行して、指名を行なった生徒のクライアント 3 に対し、仮契約が成立した旨の通知を送信する。また、この仮契約が成立した段階で、マッチング手段 1 3 は指名を行なった会員に対する担当講師を確定すると共に、連絡手段 1 7 は指名を受けた講師のクライアント 2 と指名した生徒のクライアント 3 との間で、インターネット 1 を通じた音声および映像データのやり取りを許可する。その後、連絡手段 1 7 を利用して生徒と講師との間で面談を行ない、問題がなければ仮契約と同様の手順で本契約を行なって（ステップ S 3 7 ）、手続きを終了する。また本契約の段階で、会員または講師が契約の不成立を申し出たときには、次のステップ S 3 8 以下の手順に進む。

【 0 0 4 5 】

一方、前記ステップ S 3 6 で、WWW サーバ 5 の通知手段 1 4 が指名を拒否する旨の通知を講師のクライアント 2 から受け取ると、ステップ S 3 8 に移行して、指名を行なった生徒のクライアント 3 に対し、仮契約が不成立であった旨の通知を送信する。この場合、会員は他の講師または同じ講師に対し条件を変えて指名を行なうために、ステップ S 3 9 から再度ステップ S 3 2 からの手順に戻る。

【 0 0 4 6 】

また、構成データベース 1 0 に記憶保持される講師情報と評価情報は、本システムにおけるインターネット 1 上のサイトだけでなく、外部サーバ 1 8 が展開する別のサイト上にもリンク公開される。この場合、外部サーバ 1 8 は、本システムの事務局に会員登録されていない第 3 者からも、希望する講師の指名だけでなく、その講師に対する指名条件すなわち入札条件を募る。外部サーバ 1 8 のマッチング手段 2 0 は、例えば一定時間内で最良の入札条件（例えば、最も高額の希望料金）を提示した生徒について、前記図 5 のステップ S 3 4 にあるような、指名された講師に指名承諾の可否をメールで問い合わせる。こうして、外部サーバ 1 8 を利用した生徒と講師との入札によるマッチングを行なうことも可能である。なお、外部サーバ 1 8 ではなく、本システムの WWW サーバ 5 にこうした入札機能を持たせてもよい。

【 0 0 4 7 】

契約を取り交わした後は、上述した音声映像通信手段 2 1 , 2 2 を使用して、生徒のクライアント 3 と講師のクライアント 2 との間で授業が行われる。このときの表示モニタ 2 9 に表示される一例を図 9 に示す。ここでは、講師のクライアント 2 に設けられたボード 2 6 からペン 2 7 で入力を行なうことにより、生徒のクライアント 3 の表示モニタ 2 9 上に、そのペン 2 7 の軌跡を表示するボード表示部 6 1 が設けられる。また 6 2 は、生徒のクライアント 3 に備えたカメラ 2 3 から撮影入力した生徒の画像データを、生徒のクライアント 3 及び講師のクライアント 2 の各表示モニタ 2 9 に表示させる生徒画像データ表示部で、さらに 6 3 は、講師のクライアント 2 に備えたカメラ 2 3 から撮影入力した生徒の画像データを、生徒のクライアント 3 及び講師のクライアント 2 の各表示モニタ 2 9 に表示させる講師画像データ表示部である。なお、これらの生徒画像データ表示部 6 2 や講師画像データ表示部 6 3 は、生徒のクライアント 3 または講師のクライアント 2 からの操作入力により、任意に表示または非表示状態に切り替えることができる。実際の表情を表示したくない場合には、生徒画像データ表示部 6 2 や講師画像データ表示部 6 3 を非表示状態

10

20

30

40

50

にすればよい。生徒のクライアント3と講師のクライアント2がWWWサーバ5の連絡手段17へ必ずログインするので、WWWサーバ5ですべての授業の際のアクセス記録が保存され、WWWサーバ5を通さない抜け駆け的な授業が防止される。

【0048】

そしてこのような授業が行われた後に、授業を受けた生徒のクライアント3からインターネット1を通じてWWWサーバ5へアクセスし、実際に授業を受けた生徒の講師に対する評価情報を入力することによりWWWサーバ5で評価情報の受け付けが行われ、その評価情報が講師データベース10に登録される。また、上記授業を受けた生徒の授業を行った講師に対する評価情報は、講師情報と共にすべての会員に公開されるので、生徒は過去に実際に講師の授業を受けた生徒による授業を行った講師に対する評価を正しくは把握できる。上記授業を受けた生徒による授業を行った講師に対する評価は、点数化して講師データベース10のランクに反映されてもよい。すなわち講師情報のランクは初めて講師として登録する際には学歴及び経験等のみから決定されるのに対して、既に講師データベース10に登録されている講師は授業への評価が加味されて初回登録時のランクが変動する。例えば五段階評価のアンケート形式で評価を行う場合は、まず五段階評価の各段階毎に点数を付けておき、各評価項目の評価段階に応じた点数の合計点を計算する。そして、学歴及び経験等も各レベルに応じて点数を付けておき、評価、学歴及び経験等の評価段階に応じた点数の合計点を計算する。さらにこれらの合計点を加算して、合計点80点以上はAランク、合計点60点以上はBランク等のようにランクを決定する。そして例えばAランクの講師の生徒に対する授業の料金は五千人円、Bランクの講師の生徒に対する授業の料金は四千人円等のようにランクにより異なる授業料金を設定してもよい。

10

20

【0049】

以上のように本実施例は、講師のクライアント2及び生徒のクライアント3が通信手段であるインターネット1を通してアクセス可能なサーバすなわちWWWサーバ5を備え、このWWWサーバ5は、講師情報を登録する講師データベース10と、講師データベース10の登録内容を生徒のクライアント3に公開する講師情報公開手段12と、希望する講師の指名を生徒のクライアント3から受け取ると、インターネット1を通じてこの指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせるマッチング手段13と、マッチング手段13による指名承諾の可否を例えば電子メールを通じて指名した生徒に通知する通知手段14と、生徒のクライアント3から入力される講師に対する評価情報を講師データベース10に講師情報と共に登録する評価管理手段15とを備えている。

30

【0050】

この場合、WWWサーバ5に備えた講師情報公開手段12により、講師データベース10に登録されている各講師の講師情報のみならず、各講師について実際に授業を受けた生徒や父兄からの評価情報が、通信手段であるインターネット1を通じて生徒のクライアント3に公開される。したがって、実際に講師の授業を受けた他の生徒の評価に基づき、生徒や父兄が講師を指名することができる。また、生徒のクライアント3から希望する講師を指名すると、WWWサーバ5に備えたマッチング手段13がその指名を承諾するか否かを講師に自動的に問い合わせると共に、講師から指名承諾の可否についての返答を受けると、WWWサーバ5に備えた通知手段14によりその結果が直ちに生徒に通知される。したがって、生徒がどの地域にいても、公開された講師の評価に基づいて、適正に希望する講師を指名できると共に、希望する講師が指名を承諾したか否かを生徒が直ちに知ることができる。

40

【0051】

また本実施例のマッチング手段13は、生徒のクライアント3から希望する講師の指名と共に受け取った入札条件が、その指名を受けた講師の希望に適合する場合にのみ、前記通信手段を通じて指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる入札管理手段を備えている。

【0052】

この場合、生徒のクライアント3から希望する講師の指名と共に入札条件がWWWサーバ

50

5 に提示されると、この入札条件が講師の希望に適合するか否かを、マッチング手段 1 3 に備えた入札管理手段が判断し、講師の希望に適合する場合にのみ、指名された講師に指名承諾の可否を問い合わせる。こうすれば、講師は自身の希望に適合する指名についてだけ、承諾の可否を返答すればよく、講師が評価に応じた適正な条件で指名を受けることが可能になる。なお、こうした入札管理手段は、WWWサーバ 5 のみならず外部サーバ 1 8 に備えてもよい。

【0053】

さらに本実施例では、講師のクライアント 2 から指名を承諾する返答を受けると、この講師のクライアント 2 と指名した生徒のクライアント 3 との間で、通信手段を通じた音声および映像のやり取りを許可する連絡手段 1 7 を WWWサーバ 5 に備えている。

10

【0054】

この場合、講師のクライアント 2 から指名を承諾する旨の返答を受けると、WWWサーバ 5 に備えた連絡手段 1 7 は、講師のクライアント 2 と指名した生徒のクライアント 3 との間で、通信手段であるインターネット 1 を通じた音声および映像のやり取りが可能になる。これにより、講師のクライアント 2 と生徒のクライアント 3 との間で、音声及び映像により対面教育と同等な学習環境を提供できる。

【0055】

なお本発明は上記実施例に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内で適宜変更が可能である。

【0056】

20

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の請求項 1 における個別学習指導システムでは、生徒が講師を指名する際に、実際に講師の授業を受けた他の生徒の評価を反映させることができ、しかも生徒がどの地域にいても、その評価に基づき適正に希望する講師を指名できると共に、希望する講師が指名を承諾したか否かを生徒が直ちに知ることができる。

【0057】

また、本発明の請求項 2 における個別学習指導システムでは、講師が評価に応じた適正な条件で指名を受けることができる。

【0058】

また、本発明の請求項 3 における個別学習指導システムでは、講師のクライアントと生徒のクライアントとの間で、音声及び映像により対面教育と同等な学習環境を提供することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例における好ましい個別学習指導システムの全体構成を示すブロック図である。

【図 2】同上、WWWサーバや外部サーバの機能構成を示すブロック図である。

【図 3】同上、生徒のクライアントおよび教師のクライアントの機能構成を示すブロック図である。

【図 4】同上、講師データベースの登録内容を示す概略説明図である。

【図 5】同上、生徒データベースの登録内容を示す概略説明図である。

40

【図 6】同上、講師の登録手順を示すフローチャートである。

【図 7】同上、会員の登録手順を示すフローチャートである。

【図 8】同上、講師指名の手順を示すフローチャートである。

【図 9】同上、授業の際の講師のクライアント及び生徒のクライアントの表示形態を示す表示モニタの正面図である。

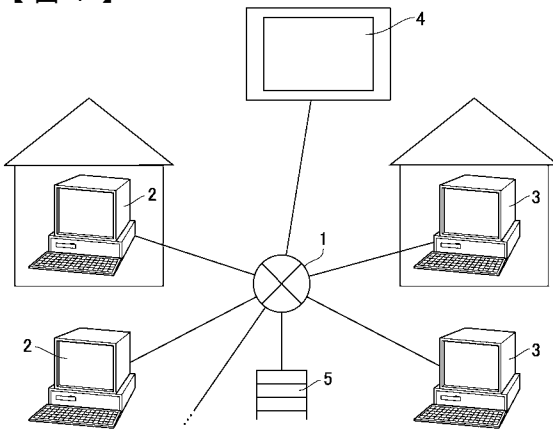
【符号の説明】

- 1 インターネット（通信手段）
- 2 講師のクライアント
- 3 生徒のクライアント
- 5 WWWサーバ（サーバ）

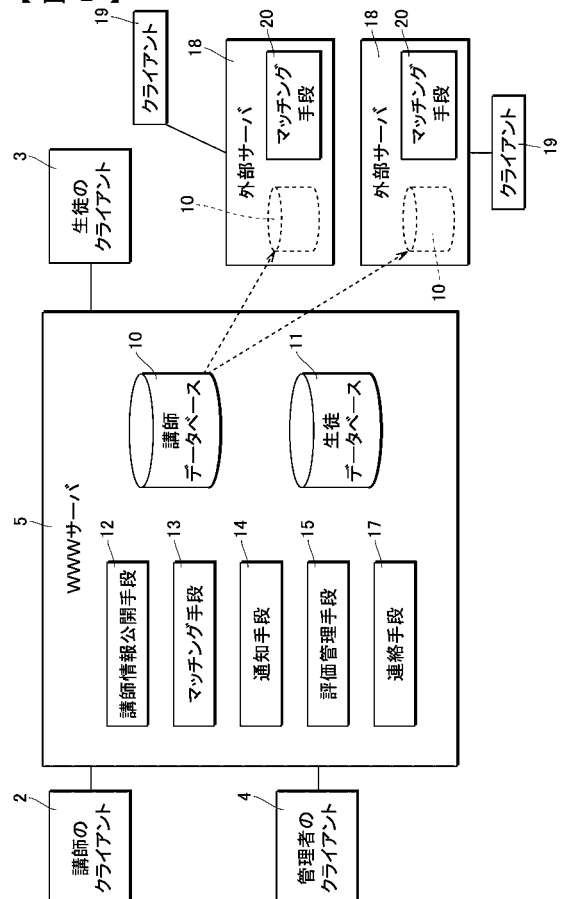
50

- 1 0 講師データベース
- 1 2 講師情報公開手段
- 1 3 マッチング手段（入札管理手段）
- 1 4 通知手段
- 1 5 評価管理手段
- 1 7 連絡手段

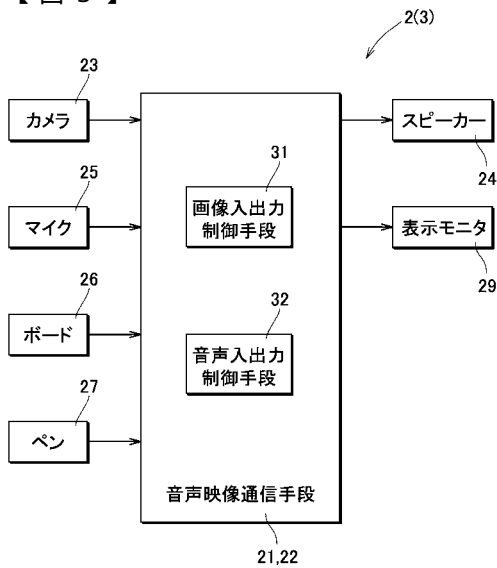
【図 1】



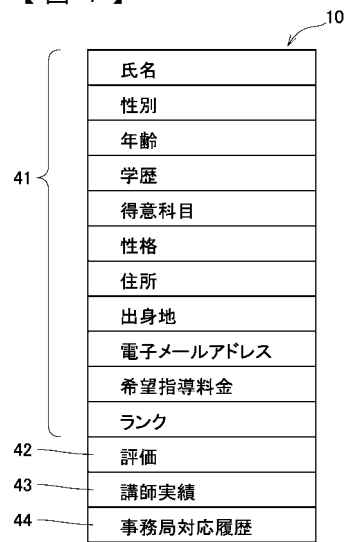
【図 2】



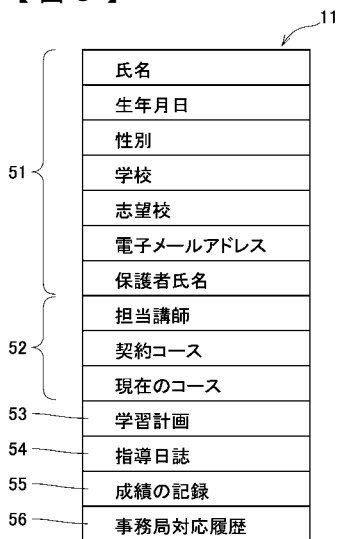
【図 3】



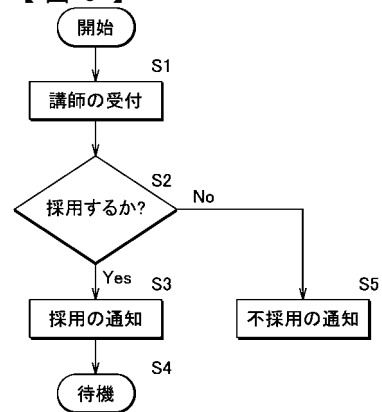
【図 4】



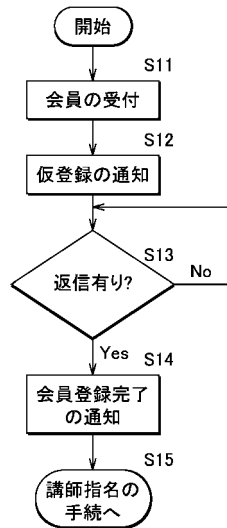
【図 5】



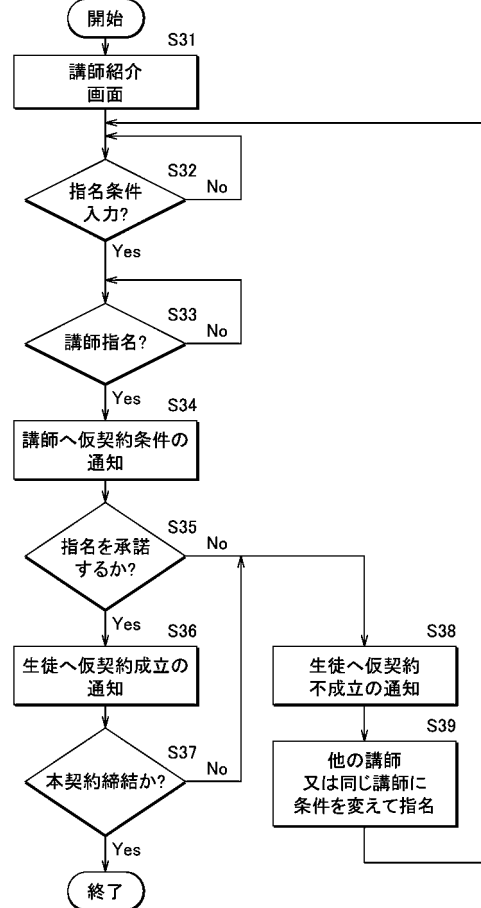
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

